

コロナ、EU 英国脱退・・困難の中に見出すチャンス

コロナ第2次感染がヨーロッパ中を恐怖に陥れている。

ドイツやフランスでは毎日2万人前後が感染し、大都市では身近に感染している人間が少しずつ増え、他人事とは言えない状況になってきた。

ほとんどのEU諸国では11月、すべての飲食店、喫茶店が閉鎖され、コンサートなどの催し物はもちろん、プロのスポーツも観客なし、という一部ロックダウン規制が敷かれ、この状態は12月も続きそうだ。3月のロックダウンと違う点は、経済への打撃を最小限にするため、企業が生産や営業を続けているところにある。ドイツでは、このコロナで大打撃を受けた旅行業界、展示会関係者などには給料の70%から87%を2年間保証する制度を設け、EU全体では7500億ユーロ（約90兆円）という高額の援助を計画している。（注1）

ドイツの貿易実績を見ると、日本への輸出は9月で21%減（前年比）日本からの輸入も同じ21%減となっている。（注2）とはいえ、自動車産業も、2021年に向けて回復の兆しが見えており、日本からの輸入も徐々に増加していくと予想される。

欧州アジアを頻繁に往復していた経営者やマネージャークラスにおいては、強制的に足止めを強いられているこの時期こそ3年後、5年後を見据えて世界市場を見直そうという動きがみられる。商品の従来の応用範囲を超えた新市場の開拓と拡大は、コロナで拍車がかかったともいえよう。またEU企業におけるアジア市場拠点としての中国の見直しもささやかれている。

英国EU脱退迄残すところあと1か月。EU商品安全基準も自由貿易協定もすべてが白紙に戻される、No Deal脱退は確実に近づいている。

未曾有の事態を迎え、年末に向け倒産や大量解雇がささやかれ、常識が常識でなくなるこの時代は新しい“何か”が生まれる絶好のチャンスである。そのチャンスを生かすためには、常にアンテナを張り、前向きに挑戦していく発想の転換が必須。コロナに負けてはいられない。

出典先

注1 Deutsche Welle, Bundesagentur für Arbeit

注2 Statistische Bundesamt



マスク着用義務を示す市内の表示（フランクフルト）



閉店せざるを得ないレストラン（フランクフルト）